

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20320094

研究課題名（和文） 最新の研究成果を歴史教育につなぐ教材・教授資料の研究開発

研究課題名（英文） Research and development of teaching and learning materials of history based on the latest research results

研究代表者

堤 一昭 (TSUTSUMI KAZUAKI)

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：70283835

研究成果の概要（和文）：

刷新の著しい歴史研究の成果を高校・大学（教養教育）における歴史教育に反映させるために、(1)「近現代のグローバル・ヒストリー」「中央ユーラシア史」「日本史と世界史の統合」の3分野を中心として、新たな研究動向の紹介や教育実践の報告を歴史系の教員・大学院生と高校教員を加えた月例研究会で行い、成果を研究会のホームページと研究成果報告書4冊で逐次公開した。(2)3分野の研究と教育の連関について、高校教員ら約160名と議論する研究会大会(2010年8月9～11日)を公開開催した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of the study is bridging between recent results of researches of history at universities and teaching of history at high schools. We have held two kinds of meetings to accomplish the purpose.

(1)Monthly seminars : We have held 27 seminars with high school teachers and graduate students, have uploaded the results and published four reports. Seminar members lectured recent results of history and new method of teaching of history at high school. We have mainly focused these three fields: "Global histories in Modern Times", "Histories of Central Eurasia" and "How to make combination of Japanese history and World history".

(2)A conference (8th-11th August, 2010): We held a conference education of history and discussed method of teaching about above three fields, with about 160 high school teachers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2009年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2010年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
年度			
年度			
総計	13,300,000	3,990,000	17,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：世界史、歴史教育、日本史、東洋史、西洋史、中央ユーラシア史、社会科教育学、グローバル・ヒストリー

1. 研究開始当初の背景

本研究は総合大学の歴史学系と、教科教育法の専門家、高校教員の三者の連携のもとに、以下の歴史教育の諸問題に対して、教育内容面からの改善策を研究するため立案された。

(1) 最近の歴史学の大きな変化：新しい領域の開拓、既存領域での定説の書きかえが相次ぐ歴史学の動向は、外部から体系的に理解するのが難しい。

(2) 高校の歴史離れ：高校の歴史教科書や授業内容における新旧混在、履修形態の多様化とカリキュラム開発の不全は、世界史の通史的知識や体系的理解を後退させ、大学でも入学者の知識がバラバラで教養・専門教育が難しくなった。歴史を考える基盤の衰弱は、危うい事態である。現代の国際関係は、自他の歴史や文化に対する理解をますます強く要求しているからである。入試や大学の教養教育まで含めた対策が求められる。

(3) 大阪大学の歴史学系の取り組み：21世紀COEプログラム〈インターフェイスの人文科学〉(2002～06年度)の研究成果を高校教育界に普及するための「全国高等学校歴史教育研究会」(毎年8月開催)を基礎として、歴史学系の教員・大学院生が高校教員と問題を討議する月例の「大阪大学歴史教育研究会」を立ち上げ、また大学教育で高校世界史の通史的知識を前提とせず、アジア史・ヨーロッパ史などの骨格を簡潔に教える講義を、全学共通教育で開講した。

2. 研究の目的

本研究は最新の歴史研究の成果を高校・大学(教養教育)における歴史教育に反映させるために、とくに刷新の著しい分野を中心とし

て内容、解説法を検討し、また教材・教授資料の作成に必要な作業を行い、それらの成果を広く歴史教育の関係者に発信することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、主に3つの活動を通じて実行し、成果を「大阪大学歴史教育研究会」のホームページ、成果報告書などを通じて公表する。

(1) 月例研究会「大阪大学歴史教育研究会」：
①外部からの講師も招いての最新の歴史学の研究動向の紹介、高校および大学教養教育での授業実践の報告、②大学院学生によるグループ研究報告/模擬授業。

(2) 作業部会による、刷新の著しい分野を中心とした解説集作成にむけた準備作業。

(3) 各地の歴史教育に関わる教員組織・学会との連携による成果の伝達・普及活動。

4. 研究成果

本研究の成果を、上記の研究方法に対応させてまとめると以下のとおりである。※「成果報告書シリーズ」1(2009年、78p.)、2(2010年、46p.)、3(2010年、58p.)、4(2011年、107p.)

(1) 月例研究会「大阪大学歴史教育研究会」：
①各年度9回、計27回開催し、毎回数十名の参加を得た。内容と検討事項などの成果は逐次ホームページで公開した。研究動向の紹介で重点を置いたテーマは「中央ユーラシアと陸海の交流の歴史」、「近現代のグローバル・ヒストリー」である。②大学院学生によるグループ研究報告/模擬授業の成果は「成果報告書シリーズ」1,2,4として刊行した。

(2) 作業部会では、「グローバル・ヒストリーと世界システム」「中央ユーラシアと陸海の

交流の歴史」に重点を置き、関連文献リストと用語集の二種の教材作成の成果を、ホームページ、月例研究会、大会(後述)で公表した。(3)各地の歴史教育に関わる教員組織・学会と連携して、シンポジウムの主催、研究分担者の他のシンポジウムでの講演をおこなった(学会発表リスト参照)。2010年8月9日～11日に「大阪大学歴史教育研究会大会 阪大史学の挑戦2」を主催し、全国から高等学校歴史担当教員を主として約160名の参加を得た。また連携する教員組織の研究会の成果を「成果報告書シリーズ」3として刊行した。

今後、本研究で得た成果を活用して、大学教養課程で使用できる世界史教科書を作成することが展望される。本研究の研究分担者桃木至朗を研究代表者とし、本研究の研究代表者・研究分担者を中心に組織する、基盤研究(A)「最新の研究成果にもとづく大学教養課程用世界史教科書の作成」(2011-2013年度)がその研究にあたる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 20 件)

- ①山内晋次、九世紀東部ユーラシア世界の変貌—日本遣唐使関係史料を中心に—、仁明朝史の研究—承和転換期とその周辺、査読無、(2011)、3-30
- ②桃木至朗、ジェンダー史と歴史教育、長野ひろ子・姫岡とし子(編著)『歴史教育とジェンダー』、査読無、(2010)、215-226
- ③児玉康弘、社会科教育史研究の活性化に向けて、全国社会科教育学会『社会科教育論叢』、査読無、47、(2010)、117—117
- ④中村薫、1970年代の世界史教科書の特徴—近代の起点と文化圏を中心に—、歴史教育史研究、査読無、8、(2010)、1-17
- ⑤中村薫、大阪大学歴史教育研究会での模擬授業について—19世紀のアジアおよび海域世界をめぐる—、「最新の研究成果を歴史教育につなぐ教材・教授資料の研究開発」

成果報告書シリーズ2、査読無、(2010)、35-41

⑥中村薫、大阪大学歴史教育研究会・院生のグループ報告へのコメント—近現代のグローバル・ヒストリーをめぐる—、「最新の研究成果を歴史教育につなぐ教材・教授資料の研究開発」成果報告書シリーズ4《近現代のグローバル・ヒストリーにおけるヘゲモニー国家とアジア》、査読無、(2010)、84-103

⑦児玉康弘、柴田透、初期社会科高校教科書における経済学的内容の変遷研究、『公民教育研究』、査読有、第17号、(2010)、1-14

⑧中村薫、世界史教育の課題と今後への提言—世界史の構成および地歴総合科目について—、総合歴史教育、査読無、45、(2010)、13-24

⑨桃木至朗、現代日本における歴史学の危機と新しい挑戦、歴史科学、査読無(依頼原稿)、197、(2009)、1-12

⑩山内晋次、海域アジアにおける「硫黄の道」日本学(韓国、東国大学校、日本学研究所)、査読無(依頼)、28、(2009)、55-83

⑪飯塚一幸、京都府における国会開設運動の展開—私擬憲法案「大日本国憲法」の成立と沢辺正修—、『史林』、査読有、第92巻第2、(2009)、359-387

⑫中村薫、中学校・高等学校の世界史的分野における東南アジア学習の変遷—学習指導要領と教科書からみた東南アジア像—、『芦屋女子短期大学紀要』、査読無、33、(2009)、55-72

⑬堤一昭、中国の自画像と日本の中国像、秋田茂・桃木至朗編著『歴史学のフロンティア地域から問い直す国民国家史観』(大阪大学出版会)、依頼原稿。査読有、(2008)、35-58

⑭堤一昭、「中国」統治における国家の正統性と言語—蒙元時代の言語・文化政策研究の現状から、第二屆現代中國社會變動與東亞新格局國際學術討論會會議手冊&論文集(國立東華大學・歴史系)、査読無、(2008)、54-57, 203-212

⑮桃木至朗、海と貿易がつくった、懐徳堂記念会編『世界史を書き直す 日本史を書き直す—阪大史学の挑戦』(和泉書院)、依頼原稿。査読有、(2008)、77-109

⑯桃木至朗、複数形のベトナム史、閉じない

ベトナム史——20 世紀に書くベトナム史と 21 世紀に書くベトナム史、秋田、茂・桃木、至朗編著『歴史学のフロンティア 地域から問い直す国民国家史観』（大阪大学出版会）査読無、(2008)、191-212

⑰秋田茂、イギリス帝国と近代アジア・日本、懐徳堂記念会編『世界史を書き直す 日本史を書き直す—阪大史学の挑戦』（和泉書院）、依頼原稿。査読有、(2008)、(2008)、191-232

⑱秋田茂、アジア国際秩序とイギリス帝国、ヘゲモニー、水島司編『グローバル・ヒストリーの挑戦』（山川出版社）、依頼原稿。査読有、(2008)、102-113

⑲桃木志朗、秋田茂（共著）、序章 歴史学のフロンティア—地域から問い直す国民国家史観—、秋田、茂・桃木、至朗編著『歴史学のフロンティア 地域から問い直す国民国家史観』（大阪大学出版会刊）、査読有、(2008)、9-32

⑳秋田茂、イギリス帝国とヘゲモニー、秋田、茂・桃木、至朗編著『歴史学のフロンティア 地域から問い直す国民国家史観』（大阪大学出版会刊）、査読有、(2008)、112-135

〔学会発表〕（計 20 件）

①児玉康弘、世界史の中のオーストリア—人物学習の面白さ—、新潟県社会科教育学会、2011 年 3.12、新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」

②桃木至朗、高校教員が東南アジア史を積極的に教える気になるいとぐちはどこにあるか、岐阜県高等学校教育研究会公民地歴部会、2011 年 1.18、岐阜県総合教育センター

③山内晋次、硫黄流通からみた海域アジア史—日本史と世界史をつなぐ—、大阪大学歴史教育研究会第 47 回例会、2010.12.18、大阪大学

④山内晋次、「東アジア史」再考—日本古代史研究の立場から—、歴史科学協議会第 44 回大会、2010.11.21、中京大学

⑤中村薫、戦後における世界史教科書の変遷—1970 年代の世界史教科書—、歴史教育史研究会第 6 回例会 2010.10.29、芦屋大学大阪キャンパス

⑥中村薫、高校教員に対する東南アジア教育に関するアンケート調査報告と今後への提言、第 5 回高大連携東南アジア教育科研研究会、2010.9.12、大阪大学

⑦堤一昭、モンゴル帝国の基本構造—チンギス・カンからクビライ・カアンへ—、大阪大学歴史教育研究会大会—阪大史学の挑戦 2、2010.8.10、大阪大学中之島センター

⑧秋田茂、グローバル・ヒストリー研究におけるヨーロッパ中心史観・パラダイム克服の試み—アジア・大阪からの視点—、大阪大学歴史教育研究会大会—阪大史学の挑戦 2、2010.8.9、大阪大学中之島センター

⑨桃木至朗、20 世紀の東南アジア史、三重県高等学校社会科研究会総会、2010.7.1、伊賀市・ゆめぼりすセンター

⑩児玉康弘、社会科の再定義は必要か？—3 つの定義比較と私の取り組み—、全国社会科教育学会シンポジウム 2009.10.10、弘前大学

⑪ Momoki Shiro, How Can Research and Education in the History of Vietnam and Southeast Asia Develop in Northeast Asian Countries?: A Case Study in Japan, Third International Forum on Historical Reconciliation in East Asia: Promoting Interest in and Understanding of History of Southeast Asia including Vietnam August 28, 2009 Sejong Hotel, Seoul

⑫堤一昭、中国的自我観与日本の中国観：追尋歴史変遷中転折期、現代「中国」の社会変容と東アジアの新環境 第三回国際シンポジウム、2009.8.25、JICA大阪国際センター

⑬ Yamauchi Shinji, A Chinese Settlement in Japan from the 11th to the 13th Centuries: An Introduction to “Tōbō” in Hakata, the First Congress of the Asian Association of World Historians, 2009.5.30, 大阪大学中之島センター

⑭ Momoki Shiro, Revitalizing Historical Research and Education: A Challenge from Osaka, Plenary Panel Session: Educations of World History: A Comparative Perspective, 1st Congress of AAWH (Asian Association of World Historians) May 31, 2009 Osaka University Nakano-shima Center, Osaka

⑮ Shigeru AKITA(秋田 茂), The Transformation of Colombo Plan and the Sterling Area in the late 1950s and Early 1960s, 1950—1960 亜州国際秩序学術研討会 The Transformation of the International

Order of Asia in 1950s and 1960s, 2
008.12.26, 台湾・台北市・國史館

⑯飯塚一幸、自由民権運動研究の現状と課題、
大阪大学歴史教育研究会 第 29 回例会、
2008.12.20、大阪大学・文学研究科

⑰山内晋次、9-14 世紀の日本列島と海域アジ
ア史、韓日海洋史・海洋文化共同Workshop 韓
日海洋史研究の最前線、2008.11.27、韓国・
木浦大学校

⑱児玉康弘、地域学習のグローバル化—近世
新潟湊を事例として、第 16 回日本グロー
バル教育学会、2008.9.13、岡山大学・教育
学部

⑲中村薫、学習指導要領と教科書からみた東
南アジア学習についての変遷、東南アジア学
会第 79 回研究大会、2008.6.8、大阪大学・
人間科学研究科

⑳ Shigeru AKITA(秋田 茂), The British
Empire and Industrialization-based
International Order of Asia in the First
Half of the Twentieth Century, Second
European Congress of World and Global
History, Session: Global Governance in an
Age of Empires: III. Economic Effects of
European Overseas Empires on other
Continents, c.1450-1960. 2008.6.5,
Dresden, Germany

[図書] (計 6 件)

①桃木至朗、大阪大学出版会、中世大越国家
の成立と変容——地域世界の中の李陳時代
ベトナム史—— (2011)、473

②飯塚一幸(共著)、財団法人懐徳堂記念会、
懐徳堂記念会百年誌 1910~2010、(2010)、
19-48

③児玉康弘(共著書)、保育出版社、社会科
教育のフロンティア(2010)、23-27

④桃木至朗、大阪大学出版会、わかる歴史、
面白い歴史、役に立つ歴史—歴史学と歴史教
育の再生をめぐって—、(2009)、269

⑤山内晋次、山川出版社、日本史リブレット
75 日宋貿易と「硫黄の道」、(2009)、90

⑥秋田 茂、桃木至朗(編著)、堤一昭(分担
執筆)、大阪大学出版会、歴史学のフロンテ
ィア—地域から問い直す国民国家史観、
(2008)、9-32, 35-58, 112-135, 191-212

[その他]

ホームページ等

<http://www.geocities.jp/rekikyoo/>
(大阪大学歴史教育研究会)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堤 一昭 (TSUTSUMI KAZUAKI)
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：70283835

(2) 研究分担者

桃木 至朗 (MOMOKI SHIRO)
大阪大学・コミュニケーション・デザイ
ンセンター・教授
研究者番号：40182183

江川 温 (EGAWA ATSUSHI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：80127191

秋田 茂 (AKITA SHIGERU)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：10175789

飯塚 一幸 (IIZUKA KOZUYUKI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：50259892

山内 晋次 (YAMAUCHI SHINJI)
神戸女子大学・文学部・准教授
研究者番号：20403024

児玉 康弘 (KODAMA YASUHIRO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：70377167

中村 薫 (NAKAMURA KAORU)
芦屋女子短期大学・生活創造学科・教授
研究者番号：80369719

(3) 連携研究者

なし